本海獅子舞番楽 猿倉講中

東京・西徳寺公演
7/19(土)

本海獅子舞番楽は、古代から信仰の山とされる鳥海山の山麓に、江戸時代に本海行人という宗教者が伝えたとされる神楽です。

私たちは

秋田県の鳥海山の麓で伝承されている芸能
「本海獅子舞番楽」のひとつ猿倉講中になります。
真夏の暑い最中ですが、番楽の熱演の数々にご期待ください。

平成23年(2011)には国重要無形民俗文化財の指定を受けており、以前は13地区に伝承されてきましたが、コロナ禍以降は活動ができなくなっている地区も少なくありません。
しかし、その様な中でも猿倉地区では子どもたちがしっかりと舞の伝承に励んでいます。
このたび、芸能に縁が深いお寺西徳寺の本堂で本海獅子舞番楽の奉納公演を行う事に成りました。
今回は子どもたちが舞った後に同じ舞を大人が舞うことで、子ども達が目指す番楽の将来を観客の皆さまにも一緒に見つめていただきたいと思います。
会場での大きな拍手が子ども達の励みとなります。番楽の未来に向けて一緒に応援してください。

演目

1 祓い獅子
獅子頭を持って悪いモノを祓う祈祷の舞を行うことは東北の神楽の大きな特徴です。猿倉では7月16日の虫追い、8月15日の盆獅子など集落の行事でも祓い獅子が行われています。

2 三番叟
神楽の場に登場し、滑稽な言い立てを語り、足を跳ね上げる軽快な舞で大地を踏み固め、舞台を祓い清めます。

3 山之神
幣束を背中に差した山之神が舞台に現れ、一足ずつしっかりと踏み締めながら厳かに舞います。山之神は農作、漁業、狩猟の神として東北各地で信仰されています。

4 剣之舞
二本の剣を持ち、大地を踏み締め、剣を振るって魔を祓う破邪の舞です。

5 三人立
三人の舞手が太刀を手にして舞います。互いに太刀を握って輪になって舞う太刀潜りなど軽快で見どころの多い舞です。

6 やさぎ獅子（子どもと大人の二頭立）
獅子舞番楽は祓い獅子舞始まりやさぎ獅子舞で終わります。祓い獅子の重厚な舞とはひと味違う躍動的な獅子が登場します。今回は子どもと大人の獅子が共演します。

このマークがついている演目は子どもたちと大人の舞を続けて上演します。

演目は予定につき予告なく変更する場合があります。

主催：光照山 西徳寺、本海獅子舞番楽猿倉講中　後援：(公社)全日本郷土芸能協会、本海獅子舞番楽伝承者協議会、由利本荘市民俗芸能伝承館「まいーれ」
鳥海山麓民俗芸能振興会、猿倉部落会、猿倉協定集落、猿倉環境保全組合　写真提供：善力堂